

# 会場の皆様からの質問に答えていただきました！！

【 質 問 】	『四季の学校・谷口』 庄司 博司 様	『星降る学校 くまの木』 加納 麻紀子 様	『秋津野ガルテン』 木村 則夫 様	(一財)都市農山漁村交流活性化機構 畠山 徹 様
① 合意形成に関して・・・  これから取り組む人へ、一言！	当時、他にまだ例を見ないことだったので、「地区全体でやりましょう。」というのは無理だったので、有志を募ってやるしかなかった。100%合意は望まなくてもよいと思った。強力な仲間がいたこと、地域内外の多くのアドバイスが力になった。議論ばかりしてても何も始められない場合もある。決断と勢い、それと仲間同士の親類が大事だと思った。	「廃校」の活用にはその地域の特徴、状況がとて色濃く出るなあと感じます。「廃校」の活用を考えることは地域の現状と向き合い、見直し、地域のこの先の姿を描くことにもつながると思います。明るく、前向きにいきたいですね。	地域の課題解決のための廃校活用の計画であるべきと考えます。そして、活用が長く続くため、運営は自立し持続可能な計画をする必要があります。	何のために廃校を活用するか、その目的を明らかにしましょう。地域のよりどころ、シンボルであった施設を活かし、地域を元気にすることを目指しましょう。
② 法的に気をつけなくてはならないこと	○保健所、宿泊許可、防災対策等、関係機関に相談し、指導を受けたいと思います。		○消防、衛生、宿泊業など、許認可を必要とするものは、取り組む内容によって様々なため、専門家や行政へ相談 ○固定資産税や賃借料について、行政と事前協議を！	
③ 行政との関わり  行政の役割	○町と賃貸借契約  ○校舎の敷地分の借地料がありましたが、平成22年度分から免除。 ○別に活用をやめる時は、我々の手で校舎を解体して更地に戻すという（更地負担）、重いリスクを背負ってのスタートでした。私たちの覚悟の程を試された部分と思っている。 ○活動が始まって19年、様々な評価・賞ももらっているので、もうとっくに削除されてもいいと思いますが、その後の二度の改善・削除の交渉にもかかわらず、まだ条項は変わっていません。時代錯誤も甚だしいと思っていますが、一方で担当課が違うと町のイベントの折に、この学校を利用してくれる等、側面的な支援もあります。	○町と管理・運営委託の契約	○計画時から相談にのってもらう必要がある  ○校舎・跡地利用の条件整理（→税金など、第3セクターとは異なる経営となれば必ず発生することを考慮しておく。）	

## 会場の皆様からの質問に答えていただきました！！

④ 資金関係				
初期投資の財源確保	○改修費約5,800千円 ○活用開始の際、中古の厨房機器等揃えるため、100万円程度、農協より融資を受けました。	○整備改修費116,031千円	○校舎の改修などは、きちんと専門家に相談することで、必要経費が分かる（整備改修費約110,000千円）	
補助金等の活用の有無	○行政の配慮で、合併浄化槽の設置、トイレの水洗化、シャワー室の設置、教室内改装等をさせていただきました。	○やすらぎの交流空間整備事業（農林水産省）	○活性化プロジェクト交付金	
運営にかかる財源	○「がっこそば」の売上でまかなっている。	○町所有の施設の管理・運営委託+体験や宿泊料	○株式会社（+出資金の活用）	
校舎維持管理費	○「がっこそば」の売上でまかなっている。	○管理費として町から当法人にいただいている金額は年間90万円。例えば清掃業務や草刈りなどは宿泊事業等の方に入れ込んでしまっているので、厳密に校舎の維持管理のみにいくらかかっているかは算出が難しい。校舎そのものの修繕等は基本的には別途町が負担しており、金額は不明。	○使用する校舎や利用方法によって大きく変わります。規模や活用方法、当初の整備によってはおおきく変わります。古い建物ですので、事業から得られる収益で減価償却費はきちんと経常。	
基金の積み立て方法	/	/	/	○公立学校施設整備費補助金等に係る財産処分手続については、文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課に問合せ下さい。
⑤ 運営体制	○町より、土地・建物を借り受け	○町所有の施設の管理・運営委託	○住民出資の株式会社	
事業計画の有無、あれば内容		○法人全体としての事業計画は毎年度作成しており、その中に施設運営事業についての記載もある。 単年度の計画ということもあり、現場レベルでの取組み内容等を記したものになっている。	○都市と農村交流計画のための事業	/

# 会場の皆様からの質問に答えていただきました！！

⑥ その他				<p>◆四季の学校谷口 →運営を維持するためには収入が必要で、がっこそば谷口を始めた →地域を元気にするために、四季の学校を始めた</p> <p>◆くまの木 →NPOのミッションや理念を押し進めるために名称を変えた →スタッフの全国公募を行い、新たな運営体制をつくり変えた</p> <p>◆秋津野ガルテン →積み重ねてきた地域づくりの中で交流拠点としての秋津野ガルテンが生まれた →経営の安定化を図るために農家レストランを運営している</p>
「活用のポイント」の具体例				

▼意見交換時のメモ	庄司様	加納様	木村様	島山様
法人が廃校活用するメリットは？			○地域住民を出資者として迎えられる・巻き込める	○交付金等の活用ができる ○活用に当たっての責任（役割）の明確化
外国人の集客方法は？			○地方新聞の活用 ○旅行会社へのPR（マージン無しで！） ○Wi-Fi設備	
直売所の売上げは？			○売上げの半分は産直。この枠は重要と捉えている	
出資金を集める際のポイント			○出資している人、そうでない人に対し、差別しない ○配当は直売所の金券 ○一人の出資者に大きな権限を与えない	
担い手不足の解消方法	○外部の人の活用も視野にしていく	○外部の人にとって魅力的な組織、経営作りが必要 ○パートのおばちゃん達の後継がない問題 ○夏休みなどで帰省する大学生がバイトをしてくれている	○直売所の経営は70才定年制としている ○都市と農村の交流施設は75歳定年 ○巻き込む努力を！ ○コミュニティづくりも大切。農家にはこだわらない。	
地域の子供達との関わり方	○地域の子供達も施設を利用してきている	○NPOの活動として、町内の子供達を対象としたイベントを毎年開催	○小学校が使われていることに誇りを持っている	